

問1 源頼朝が確立した武士による政治において、将軍が御家人の領地支配を保証する代わりに、御家人が軍役などを負担するという主従関係の基盤となった仕組みを何とといいますか。（2014年 和歌山公立入試 類似）

1. 御恩と奉公 2. 寄進地系荘園 3. 惣領制 4. 下剋上

問2 14世紀前半、鎌倉幕府の政治に対する不満が高まる中で倒幕の計画を立てて兵を挙げた天皇と、それに応じてもとは幕府側の有力な御家人でありながら京都の六波羅探題を攻め落とした人物の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇と足利尊氏 2. 後鳥羽上皇と足利尊氏 3. 後醍醐天皇と足利義満 4. 後鳥羽上皇と源頼朝

問3 鎌倉時代において、源頼朝の死後に幕府の実権を握った北条氏が代々世襲した、将軍に代わって政治を司る役職を何とよぶか、次の中から選びなさい。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 執権 2. 管領 3. 老中 4. 関白

問4 鎌倉幕府が「六波羅探題」という役職を設置した背景とその目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 岐阜公立入試 類似）

1. 承久の乱に勝利した幕府が、朝廷を監視し、西日本における支配を強めるため。
2. 元（モンゴル帝国）の襲来に備えて、九州地方の防衛を強化し、沿岸部の警備を固めるため。
3. 平氏を滅ぼした源頼朝が、京都の治安を維持し、天皇から征夷大将軍に任命されるのを待つため。
4. 執権政治を確立した北条氏が、有力な御家人の不満を抑えるために幕府の財政管理を厳格化するため。

問5 鎌倉時代に制定された「御成敗式目」において、諸国の守護の職務や土地の権利について定められた内容として正しいものはどれですか。当時の資料には、京都の警護や犯罪の取り締まりといった守護の役割や、土地支配に関する年限が記されていません。（2018年 沖縄公立入試 類似）

1. 守護の職務を限定し、武士が20年間土地を支配した場合はその権利を認めることとした。
2. 守護に徴税権を与え、武士が新しく開墾した土地は永久に私有できることとした。
3. 守護に城の修理を報告させ、武士が他家と婚姻を結ぶ際は幕府の許可を必要とした。
4. 守護の世襲を禁止し、武士が土地を失った場合は幕府がその全額を補填することとした。

問6 分割相続などの影響で生活が苦しくなった御家人を救済するため、1297年に鎌倉幕府が出した「永仁の徳政令」の内容として正しいものを選びなさい。（2017年 香川公立入試 類似）

1. 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。
2. これ以降の分割相続を一切禁止し、すべての所領を幕府が管理して御家人に給与を支払う。
3. 蒙古襲来の戦功に応じた十分な恩賞を与えるため、西国の公家から土地を取り上げて配分する。
4. 御家人の借金を帳消しにする代わりに、今後一切の貨幣の使用や商業活動を禁止する。

問7 鎌倉時代に大陸から伝来した禅宗が、当時の政治の担い手であった武士の間に広く普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 自らの精神を鍛え、悟りを目指すという厳しい修行のあり方が、武勇や規律を重んじる武士の気風に適していたから。
2. 念仏を唱えるだけで極楽浄土へ行けるという簡潔な教えが、文字の読み書きに慣れていない多くの武士に歓迎されたから。
3. 大規模な寺院を建立することで、領地を治める武士の権威を農民に示すのに最も都合が良かったから。
4. 和歌や蹴鞠といった公家文化を否定し、武士独自の新しい娯楽を提供することに主眼を置いていたから。

問8 13世紀に大帝国であった元を訪れたベネチア出身の商人が、日本を「黄金の国ジパング」としてヨーロッパに初めて紹介した旅行記の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 東方見聞録 2. 世界の記述 3. 西遊記 4. 海国図志

問9 1221年に後鳥羽上皇が、源頼朝が亡くなった後の鎌倉幕府の混乱に乗じて、朝廷の権力を取り戻そうと兵をあげた出来事を何とよぶか、次の中から選びなさい。（2022年 山形公立入試 類似）

1. 承久の乱 2. 壬申の乱 3. 応仁の乱 4. 平治の乱

答え合わせ・解説

問1	答え 1 御恩と奉公	鎌倉幕府の仕組みは、将軍と御家人の個人的な主従関係によって支えられていました。将軍が御家人の領地を保証したり新たな土地を与えたりする「御恩」に対し、御家人は「奉公」として軍役や鎌倉の警護を行いました。この土地を介した双方向の契約関係が、武家政治の基礎となりました。
問2	答え 1 後醍醐天皇と足利尊氏	鎌倉時代末期、北条氏による専制政治への不満が広がる中、後醍醐天皇が倒幕の挙兵をしました。当初は幕府軍として派遣された足利尊氏でしたが、途中で天皇側に寝返って六波羅探題を攻略しました。同時期に新田義貞が鎌倉を攻め落としたことで、1333年に鎌倉幕府は滅亡しました。後鳥羽上皇は承久の乱（1221年）で幕府を倒そうとした人物であり、足利義満は室町幕府の第3代将軍です。
問3	答え 1 執権	鎌倉幕府を開いた源頼朝の死後、有力な御家人であった北条氏が政治の主導権を握りました。北条氏は将軍を補佐しつつ、実際には幕府の最高責任者として振る舞う「執権」という立場を世襲し、北条泰時の時代に制定された御成敗式目などを通じて独自の政治体制を確立しました。
問4	答え 1 承久の乱に勝利した幕府が、朝廷を監視し、西日本における支配を強めるため。	承久の乱は、朝廷が幕府を倒そうとして失敗した事件です。これを受けて幕府は、二度と同じような反乱が起きないよう、京都に拠点置いて朝廷の動向を常に把握する仕組みを作りました。これが六波羅探題の設置であり、この機関を通じて幕府の権力は西日本へと大きく拡大することになりました。
問5	答え 1 守護の職務を限定し、武士が20年間土地を支配した場合はその権利を認めることとした。	御成敗式目では、守護の権限が大きくなりすぎるのを防ぐため、職務を「大番催促（京都の警護）」や殺害人・夜討などの取り締まりに限定しました。また、土地争いを早期に解決するため、20年間実効支配（知行）している土地については、書類がなくても権利を認めるという「二十箇年の知行」の規定を設け、武士社会の安定を図りました。
問6	答え 1 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。	幕府は困窮する御家人を救うため、売却したり質に入れたりした所領を無償で元の持ち主に返させる徳政令を出しました。しかし、これにより金銭の貸し借りができなくなるなど経済的な混乱を招き、かえって御家人の生活はさらに苦しくなり、幕府への不満が高まる原因となりました。
問7	答え 1 自らの精神を鍛え、悟りを目指すという厳しい修行のあり方が、武勇や規律を重んじる武士の気風に適していたから。	禅宗は、座禅を通じて自己の精神を律し、強靱な精神力を養うことを重視しました。これは常に死と向き合い、戦場での冷静さや自己規律を必要としていた武士の生き方と非常に親和性が高かったのです。そのため、鎌倉幕府の執権であった北条氏など、多くの有力な武士が禅宗を保護し、その普及を後押ししました。
問8	答え 1 東方見聞録	イタリアの商人マルコ・ポーロが、元に滞在した際の見聞をまとめた書物です。この中で日本は直接訪れてはいないものの、宮殿や家の屋根が金でできている「黄金の国ジバング」として紹介されました。この記述は後の大航海時代の探検家たち、特にコロンブスに大きな影響を与え、アジアへの航路開拓を目指すきっかけの一つとなりました。
問9	答え 1 承久の乱	源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、三代将軍の実朝が暗殺されるなど幕府が揺らいでいた時期に、後鳥羽上皇が倒幕を計画しました。しかし、北条政子が御家人たちの団結を訴えたことなどにより幕府側が勝利し、朝廷の勢力は大きく衰退することとなりました。